



＝ いまの憲法が私たちの暮らしを護る ＝

参議院選挙で選ぼう

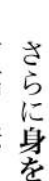


戦争させない暮らしを立て直す

ロシアのウクライナ侵略は日本また国際社会に大きな衝撃を与えています。侵攻に触発され、憲法九条で日本を守るのかとの不安が広がっているように見えます。

私たちは戦争をさせないという決意をもち、敵基地攻撃能力、核共有などと勇ましく虚勢を張ることのない外交で国民を守るという強い意志を持った政府を選ばなければと考えます。

二度の消費増税でデフレ脱却できず失敗しました。これらは25年に及ぶデフレを固定化させてしまった自公政治の失敗と言わざるをえません。



九条は過去の歴史を踏まえ、一項で侵略戦争をしない、二項でそのための戦力は持たないと宣言し為政者に縛りをかけ施行以来75年武力紛争せずきました。

参議院選挙で選ぶのもう一つ判断しなければならぬことがあります。いまの日本の平均賃金はOECD加盟38カ国中23位と低位に甘んじ貧しくなってしまうことです。どの経済指標値を見ても貧富の格差は拡大し貧困に陥る人を増加させています。

さらに身を切る改革を声高に訴えて支持を広げた維新です。その政策は保健衛生に関する施設・職員を激減させ行政サービスの低下をまねきコロナ感染、死者数で全国ワースト1、これが大阪府市民自身の身を切る改革でした。

では他国は攻めないが攻められたらどうするか、この疑問には専守防衛で対処すると大多数の国民主権者は考え今日に至っています。戦争はまず意思と能力の探り合いがあり、避けるための合意点を見いだすことが政府間交渉の最も重要な責務で、武力行使への進展は政治の失敗です。

アベノミクスは異次元な金融緩和をしたものの積極財政すべきところ真逆な緊縮財政と

外交で国民を不安にさせない、デフレから脱却し暮らしを立て直してできる政権を7月の参議院選挙で選びましょう。

の失敗です。

の積極財政すべきところ真逆な緊縮財政と

の積極財政すべきところ真逆な緊縮財政と

今月の予定です	
_ 皆さん 気軽に参加ください _	
5月8日(日) 13:30 ~ 16:30 <small>DVD視聴と意見交換</small> "中国の友よ君はそれで幸せなの?" 南部梅郷公民館 南地域九条の会	コロナの感染状況で変更・中止することがあります。
5月9日(月) 16:00 ~ 17:00 <small>9の日 行動</small> 九条通信配布・ボードでアピール 川間駅北口 野田・九条の会	
5月14日(土) 13:30 ~ 16:00 野田・九条の会 5月例会 意見交換 "核"核共有、原発など 樺のホール 研修室 野田・九条の会	
5月19日(木) 13:30 ~ 15:30 <small>テレートク</small> ちょっと硬派な <small>(申込み先) n.katagiri88@gmail.com (片桐)</small> <small>Google meet</small> "おしゃべりカフェ" 野田・九条の会	
6月5日(日) 13:30 ~ 16:00 <small>DVD視聴と意見交換</small> "ユー・ジーン・スミスの水俣" 南部梅郷公民館 南地域九条の会	

シリーズ 私たちの憲法

不要・怖い！緊急事態条項

▶▶▶ 自民党案は大日本帝国への回帰 ◀◀◀

自民党は災害を理由として憲法に緊急事態条項を入れようとする12年案また18年案を提示しています。前者は本音を、後者は国民に抵抗感が出ないように簡略化しています。怖い狙いが分かりやすい12年案を見ましょう。

- 案- <…特に必要があると認めるときは…緊急事態の宣言を発することができる。> **98条**
- 案- <…内閣は法律と同一の効力を有する政令を制定することができる…> 3項は<…何人も…国その他公の機関の指示に従わなければならない。> **99条**

98条で内閣の一存で宣言するといひ、99条で思うがままの法律を作り、それを全国民に従わせると言っています。

自民提示案はコロナ感染における緊急事態宣言とは全く異なるもので、自民条項案を認めてしまえば、日本は専制国家そして独裁国家へと変貌し、その姿は「緊急勅令」ほかが存在した大日本帝国憲法下の一世紀前に戻ってしまいます。当時の国民は国家権力に言論の自由、報道・表現の自由を極端に制限され従わされてしまいました。このいつか来た道を再現させてはなりません。この条項は不要で、緊急時には**法律の事前準備**と**緊急集会**で十分対処できます。

ウクライナ、ロシアの侵略と戦う この機を狙う壊憲勢力と闘う



ブルー、それはウクライナの青い空ではない。町ゆく娘たちの服も軽やかにまた春がやってきた。しかし、ブルー憂鬱なのである。コロナ禍もありわが国の政治状況に閉塞感が漂う中、テレビやネットで配信される戦争の悲惨な映像を目にして心が折れてしまった人たちも多い。

第二次世界大戦が終わって77年、この間に戦争はあったが21世紀になってもなお残虐な殺戮が始まってしまった。TBSキャスターの金平氏はベラルーシへ飛んでプーチンの盟友ルカシェンコ大統領にインタビュー、同大統領は「ロシア人は敬意をもってウクライナの民間人に接している。」とうそぶき、さらに駐日ロシア大使は臆面もなく空々しい嘘を吐き続けた。

ウクライナへ侵攻が始まってすぐ、哲学者Y.N.ハラリは英紙に「プーチンは負けた」と寄稿、プーチンはすでに敗北に向かって突き進む可能性が高い、またゼレンスキー大統領の訴え、ロシア軍艦に「くたばれ」と叫んだウクライナ兵士、ロシア戦車の前に座り込んで抵抗した民間人、長い目でみればこうした”物語”は大きな価値をもつと。

ロシアには大義はなく道徳的に負けている。見え透いた嘘を流しながら民間人を標的にし残虐な殺戮を続ける。

化学兵器の使用やさらには核兵器にも手を出しかねない。

軍需産業の暗躍のもとイラク、アフガン戦争を仕掛けた脛に傷をもつアメリカは本気でこの戦争を止めようとしているのか疑いをぬぐえない。

EU議会でアイルランド選出の女性議員は「戦争への答えはさらなる戦争ではなく平和である。砲身で平和はもたらされない。それができるのは外交であり対話である。」と発言。正に九条の精神である。

我が国は日中戦争の反省なく、これを機とばかりに核共有や敵中樞攻撃をも可とするよう壊憲を急ぎ、日本を戦争が出来る国に変えようと主張する勢力がある。プーチンのような独裁者が現れ戦争を起こさぬように現憲法は作られた。これを壊そうとする圧力に屈せず、緊急事態条項を加えるなどは許してはいけない。今こそ、「日本にはこの憲法あり」を専守防衛と共に全世界に強くアピールしつつ粘り強い地道な外交努力が求められる。次期参院選ではこれらを考慮して投票すべきだろう。

悲しいかな、この憂鬱が消え去りウクライナの娘たちが青空のもと楽し気に散策できる日はまだ先のようなのだ。

花



黄・赤・白・薄紫の花が家々の庭に生き生きと競うように咲いている。嬉しさがこみ上げ心が和む。

なのに、テレビの前に座ると、目の中に飛び込んでくるウクライナへの侵攻ニュースに打ちのめされてしまう。

東日本大震災の時も、あの津波の映像を見て、かなり気分が落ち込んでしまった。が、今回は自然災害ではなく、人の意志によって起こされたものだ。持っていきようのない憤りに胸が塞がれる。テレビを消し庭に目をやると、椿、アイリス、もくれんの花が今を盛りにと咲いていた。何もなかったようなその様子に全身の力がすうーと抜けていった。

今、ウクライナの人々には花に目を向ける時間さえ無いでしょう。彼の街で花にゆっくりと水やりする人々の姿を一刻も早く見たいと多くの人が願っていると思う。そして、ロシアの兵士もそれぞれ無事に家族の元に戻ってほしい。先の戦争で中国やフィリピンに出征していった父親とその姿がどうしても重なってしまうのだ。

父が残したアルバムには、何枚もの花の写真と写生画が貼ってあった。戦後も消えることのなかった心の痛みを、あの花たちが分かち合ってくれていたのかと今にして思う。

今度実家に行ったら、20年ぶりにあのアルバムを開いてみようと思っている。

